

【研修報告】

朝日大学短期海外研修（ハワイ大学マノア校）を終えて

禿 隆一*¹ 山本英弘*¹

2018年4月に締結した朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科（以下、本学科）とハワイ大学マノア校教育学部との学術交流に関する覚書に基づき、Department of Kinesiology and Rehabilitation Science（以下、KRS）のプログラムを基盤として2019年9月8日（日）から17日（火）までの8泊10日間の短期研修（以下、本研修）が行われた。2019年4月に応募が開始され、15名の学生からの応募があったが、書類選考と面接審査を経て、本学科所属の3年生8名、2年生2名の合計10名の学生が参加した（うち女子2名）。参加した学生の全ては海外経験が少なく、9名の学生が初めて海外を本研修で経験することとなった。また、今回が本学科で行われる初めての海外研修であることから、5月から、月1回のペースでガイダンスを行った（合計5回）。事前ガイダンスの詳細は、朝日大学 ELS 利用などの各学生の英語学習進捗状況の確認、ハワイ大学教員である Dr. Oba 先生を朝日大学へ招聘した研修参加学生との交流およびハワイ大学の情報提供、本研修に向けての準備などであった。参加学生の多くは体育会に所属しており、また、募集から決定に至るまでの期間が短かったこともあるため、学生達は ELS 利用が週に1回程度の参加と利用数が低くなってしまったが、本学科英語教員である松井准教授による英語指導のご助力もあり、複数回のガイダンスを行ったことで、段階ごとに意識を高めて本研修に向かうことができた。



図1：研修初日の宿泊施設前にて

（図1）研修当日、台風15号が日本に迫る中、学生は時間通りに集合場所に到着し、飛行機も無事に出発した。学生の中には初めて飛行機に乗る学生もあり、機内での過ごし方に苦戦をしていた様子に感じた。空港到着後、台風の影響があったのか入国審査はスムーズに通ることができ、空港出口にはハワイ大学 Dr. Oba 先生、Ms. Da 先生、現地に滞在されている明海大学の神末教授にお出迎え頂き、滞り場所であるハワイ大学リンカーンホール周辺に向かい、宿泊手続きや翌日から始まるプログラムの準備を行った。準備として、大学近辺のスーパーマーケットでの買い出しや昼食、大学キャンパス散策、明日からのプログラムに対する意思疎通など今後のスケジュールについてのミーティングを行った。（図2）本研修期間中は、食事については各自で負担することとなっており、ハワイの物価の高さから、現地スーパーマーケットで数日間の食事や、宿泊先はホテルではなく大学寮である

為、使い捨ての食器な

どを購入した。使い捨て食器などはまとめることによって比較的安く購入でき、来年度以降の研修では、あらかじめこちらでまとめて購入し、用意をするべきだと感じた。またこの準備の1日によって、明日からのプログラムの予習、時差ボケの調整、食事の買い物の際に実際の日常英会話を肌で感じ、明日からに備えることができた為、非常に有意義な初日となった。

KRS プログラムはオープニングセレモニーから開始



図2：初日ミーティング風景

受付日 2020.1.10

*1 朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科

され、最終プログラムであるクロージングセレモニーまで、5日間の短期の研修プログラムであったが、プログラム内容が非常に充実しており、私も学生達もあつという間の研修であった。多くの日本の大学と交流のあるハワイ大学KRSであるが、その多くはアスレチックトレーナー研修を目的としたものであり、今回私たちが参加したプログラムは、講義の聴講、実技授業への参加、教員養成プログラムやトレーナー業務の見学、NCAA大学スポーツの観戦、学生生活における課外活動参加など、本学科が実施したKRSの学生として1週間の授業を体験するプログラムは日本の大学では初めて試みるプログラムであった。(図3)



図3：ガイダンス後の施設見学

授業の聴講やKRS学生による活動の見学では、KRS学生の授業に対する真摯な態度、関連な意見交換、教員のきめ細やかな指導、授業後にも関わらず列をなして教員とコミュニケーションをとる姿などを目の当たりにし、研修参加学生達も非常に刺激になり、学生自身も本研修初日から比べ、積極的な行動をとるようになっていた。(図4) その変化を表す理由として、学生達には毎日就寝までに、1日の研修内容を振り返ってもらう為の日誌を義務づけていたが、その内容が初めは授業の驚きなどが多かったが、日を迫うにつれ、ポジティブな内容やハワイ大学の行事等に自身からチャレンジする機会の内容が多くなっていった。また、オープニングセレモニーではおどおどしながら英語での自己紹介を行っており、私としても英語のサポートを行うと伝えていたが、相談等もなく、消極的な姿が非常に目立った。しかしながら、クロージングセレモニーでは、スピーチ内容の相談を事前に私のところに来るものも多く、またある学生は、現地で友達となったKRS学生に英語のチェックをしてもらうなど積極的な行動を取り、全員が心のこもったスピーチを行うことができたと感じた。実技の授業は英語のみのコミュニケーションであったが、本学科の学生にとって得意分野でもあったので、初日から積極的な参加が見られた。(図5) 参加したどの実技授業も非常にテンポが良く、KRS教員のきめ細やかな指導に、私の今後の授業にも参考になることが多かった。また、KRSの学生も誰一人手を抜かず一生懸命に参加しており、特に印象に残っているのは、ウエイトトレーニングの授業で、KRSの学生が自身のウエイトの限界に挑戦する姿を誰一人からかうこともなく、達成できた後に自然な拍手やハイタッチをする姿があったのは日本の大学の実技ではなかなか見られないものではないかと考える。



図4：授業風景1
(Emergency Care and First Aid)



図5：授業風景2
(Adapted and Prescribed Exercise)

学生交流では、これもKRSプログラムでは初の試みである学生証(ID)の発行及び、レクリエーションセンターの利用が大きな役割を果たしていた。特に、レクリエーションセンターの利用については、授業内では学生と交流を持っても授業が終了すると、次の授業がある為なかなか次の接点作りが作りにくい場面があったと思うが、授業終了後に研修参加学生はレクリエーションセンターを利用し、センター内のコートでハワイ大学の学生とバスケットボールを通して交流を行っていたり、トレーニングマシンを利用しながら共通の話題で盛り上がったりと、毎日の夜ミーティングまでの時間を非常に有効に活用し、充実した日々を送っていたと感じた。KRSの学生による課外活動の見学では、研修参加学生の積極的な態度が非常に印象的であった。今回研修に参加した学生はトレーナーや教員など様々な将来の夢があったため、トレーナー実務見学で

は実際のトレーナー（日本人留学生であった）に対し多くの質問をする姿や、KRS 教員養成プログラムの見学でも、積極的に質問をする教員志望の学生を目にしたことは非常に良かった。また、研修プログラム内の交流イベントである「Get-together with KRS student Club」では、多くの KRS の学生と交流を図ることができた。途中、これもハワイ大学での初めての試みであるが、ハワイアンフラの先生に来ていただき、フラの指導をして頂き、ハワイの文化に触れることもでき、私たちもお礼としてクロージングセレモニーで指導いただいたハワイアンフラを披露することとなった。（図6、図7）



図6：フラ練習風景



図7：クロージングセレモニー集合写真

週末の特別プログラムは、KRS プログラムとは別であったが、Dr. Oba 先生にご案内いただき、大学の裏側にあるマノアの滝やホノルルを一望できるタンタラスの丘などハワイの自然を満喫した。（図8）また、ハワイ州で一番大きなハワイ大学所有のスタジアム（アロハスタジアム）では高校アメリカンフットボールを観戦できた。試合は、オバマ前大統領も在籍していたプナホウ高校とワイアナエ高校との試合であり、大学スポーツよりは保護者の方が多く応援に



図8：タンタラスの丘にて



図9：アメリカンフットボールゲーム観戦@ Aloha Stadium

来ており日本の雰囲気にも似た観戦となったが、試合のハーフタイムではプナホウ高校のマーチングバンドの演奏を鑑賞することができ、また試合の最中には、この研修中では一番のスコールに遭遇し、様々な体験をすることができた。（図9、図10）日曜日は、大学プログラムがなく、終日自由時間となっており、参加学生全員とハワイの公共交通機関であるバスを利用し、ホノルルの観光街（ワイキキビーチ、ロイヤルハワイアンセンター、アラモアナショッピングセンターなど）を散策し、ハワイの文化や社会に触れることができた。



図10：高校マーチングバンド@ Aloha Stadium

本研修を通して学生の成長には、KRS 学生の影響が非常に大きく、より積極的な態度、行動にはとても良い方向で、目を見張るものがあつた。また他人への配慮に関しても、よく気づく様になり、最終日前日のミーティングにおいて、プログラム中多大なるお世話をいただいたハワイ大学の先生

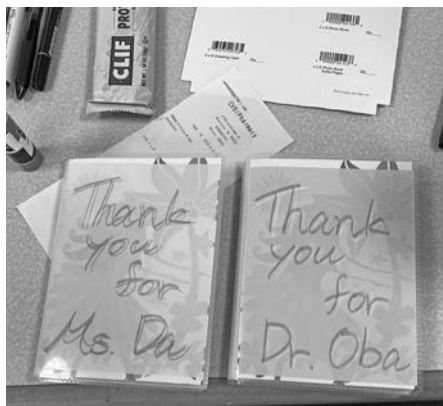


図 11：ハワイ大学先生へのプレゼント

へ、感謝の気持ちとしてメッセージ付きフォトアルバムを最終日にプレゼントし、喜んでいただけた。(図 11) 今回の研修において、参加学生には帰国後、授業だけでなく、彼らの部活動や今後の学生生活において多大なる影響を与えることは間違いないであろう。私達自身も引率として研修に参加することができ、教員として、また語学の研修としても非常に有意義であった。

本研修では、事前の細かなガイダンスや参加学生の規則遵守の行動により、無事全てのプログラムを終了することができた。次回の研修を実施するにあたって、参加学生の英語能力はプログラム終盤ではかなりの成長を見せていたが、やはり本学科学生の英会話能力ではまだまだ不足していると感じた。今後、より意義深い研修となる

るように、朝日大学 ELS を多く利用するなど、参加学生も事前の英語学習を早めに計画するよう促していきたい。また、週末の研修プログラムは大学が休日であるため、週末の自由行動に向けて、参加学生を数グループに分け、研修ミーティングの際に自由行動の計画表を提出させ、週末に実行させるなど、学生自身に計画させ、その行動をサポートするなどして、海外短期研修に相応しい内容となるよう、今後も検討する必要性が感じられた。

最後に、本研修終了後の 10 月 30 日（水）に本大学 6 号館 6202 講義室において、学生短期海外研修報告会を開催した。報告会は、始めに引率教員から、研修の概要やプログラムについて写真や動画を用いて説明し、その後、派遣学生 10 名から授業や内容について、テーマごとにディスカッション形式で印象深いエピソードについての報告を行った。研修終了から 1 ヶ月以上経つ報告会となったが、派遣学生からはハワイ大学学生の何事にも真剣に全力で取り組む姿に影響を受け、学習意識や学生生活に良い効果をもたらしていること、現地の学生や教職員の方々に温かく受け入れてくれたことで、積極的にコミュニケーションをとることができたこと、その結果、さらなる英語やコミュニケーション能力の向上を目指す気持ちが芽生えたことなど、派遣学生にとって様々な良い影響が報告された。報告会は、本学科の教員や学生のみならず、他学部他学科の教員や学生約 50 名の参加があった。学生の中には来年度短期海外研修を希望しているのか、積極的な質問も多数あり、全体を通して充実した報告会となった。(図 12、図 13)



図 12：報告会の様子



図 13：報告会後の記念撮影

我々が本研修の募集前から報告会まで、半年以上のサポートをすることとなったが、最後まで充実した研修となったことは、本学科での学科長をはじめとした多くの教職員のお力だけでなく、プログラムの企画から終始、携わって頂いたハワイ大学の Dr. Oba 先生、研修中のきめ細やかな案内等を頂いた Ms. Da 先生、また学生の買い出しのお手伝い等、細やかなサポートを頂きました朝日大学客員教授でもある明海大学神末教授などたくさんのサポートを頂けたことで私自身も楽しく終えることができました。ここに深謝申し上げ、今後の短期海外研修が更なる発展を願い、引き続きできるだけだけの協力をしていきたい。